発行：北神圭朗後援会　令和６年６月吉日

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

５月２０日に台湾の頼清徳総統の就任式に出席しました。台湾と日本との関係は、中国の動向に大きく影響されます。

中国は日本周辺において勢力を確実に伸ばしています。その手法は、尖閣諸島などで既成事実を重ねていく「忍び足侵略」です。結果、我が国の領海・領土を事実上、自分たちの勢力範囲に取り込んでいます。あからさまな軍事行動ではないので、専守防衛を守っている自衛隊は、指をくわえて見ているだけです。**中国を刺激しないように、我が国はむしろ気を使って、結果として北京のやりたいようにさせているのです。**

こういう悪意ある国と平和を保つためには、慎ましやかに振る舞うのは最悪の選択です。相手は「日本人に抵抗の意思がない」と思い込んで、どんどん調子に乗るだけです。麻生政権の末期から、中国の準軍艦が積極的に尖閣諸島を包囲しはじめましたが、それから15年ほど経ちます。**昨年は最も激しい年となりました。ほぼ毎日（352日）、しかも中国船は1,287隻と記録的な数で押し寄せています。**

日本政府はどう対応しているのか。

４月２７日には、尖閣諸島を調査するために国会議員や学者を乗せた船が、中国の準軍艦に威嚇されました。どう対応したか。上陸を諦めてすごすごと引き下がりました。習近平がほくそ笑んでいることは、言うまでもありません。

やはり、抑止力を効かせ、我が国も戦う能力と意思を示さなければ、次から次へと既成事実が積み重なるだけです。防衛予算を増額して、中国を標的にできるミサイルなどを整備することは、こうしたことにつながります。**ただ、「忍び足侵略」を抑止するのは、非常に難しいです。中国との紛争は、台湾有事よりもむしろ中国の日々の「忍び足侵略」の中で、誤算や事故から発生する可能性があります。**

残念ながら、今や中国は日本よりも、経済力、外交力、軍事力で勝っています。まずは、日本独自の国力・防衛力を強化する必要があります。同時に、中国にはなくて、我々が恵まれているものがあります。それは同盟国や同志国です。

台湾もフィリピンも同じように中国の「忍び足侵略」にさらされています。中国に対する不信感は募り、それぞれの国の防衛力を高めています。米国との連携も強化されています。**一国だけでなく、こうした仲間を増やし、連携を緊密にすることが、中国に対して抑止力を補強し、平和を守る現実的な手段です。**

しかしながら、台湾は世界のほとんどの国と正式な外交関係がありません。米軍との連携も強化されているとはいえ、日本やフィリピンなどに比べてまだまだ深める余地があります。当然、台湾と連携することは、中国の怒りを買います。しかし、我々には選択の余地はないと考えます。

「台湾を孤立させてはならない」との思いで、今後も台湾との交流を深め、少しでも外交・防衛の連携を深めることに努力してまいります。